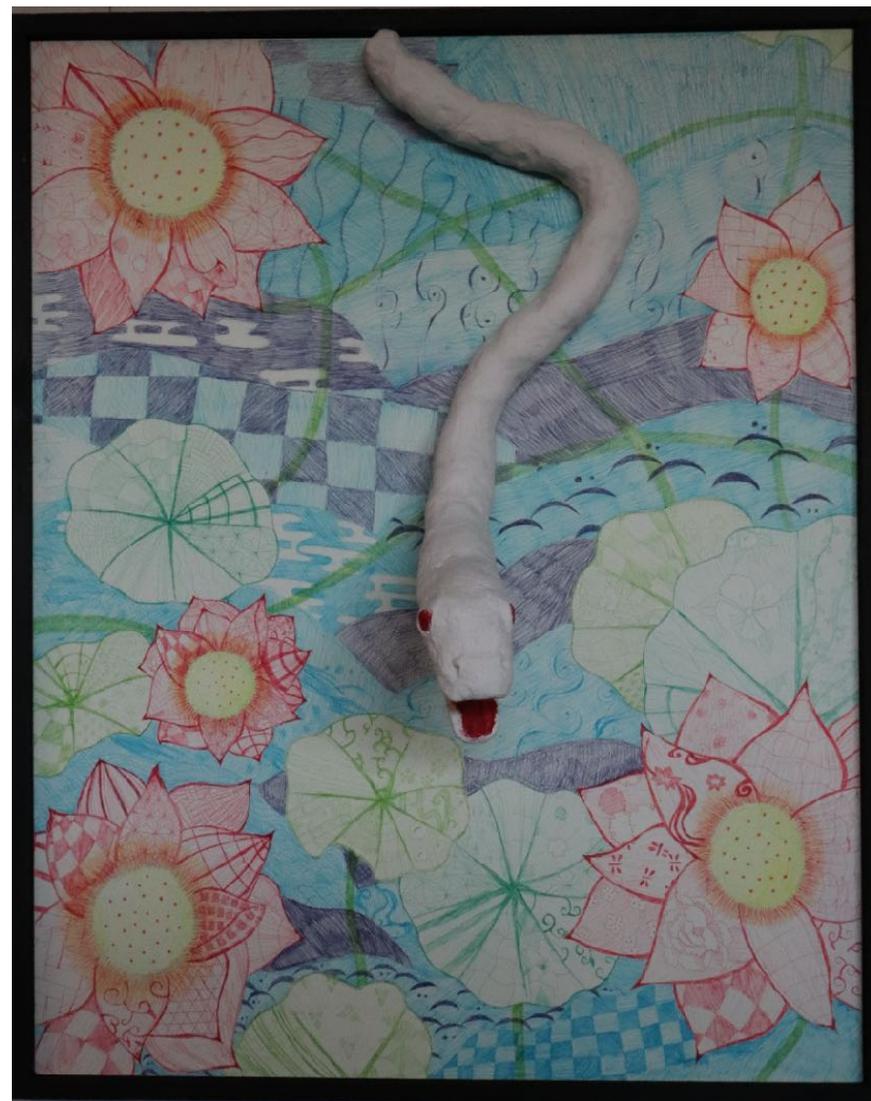


ぼたん

令和7年12月26日発行

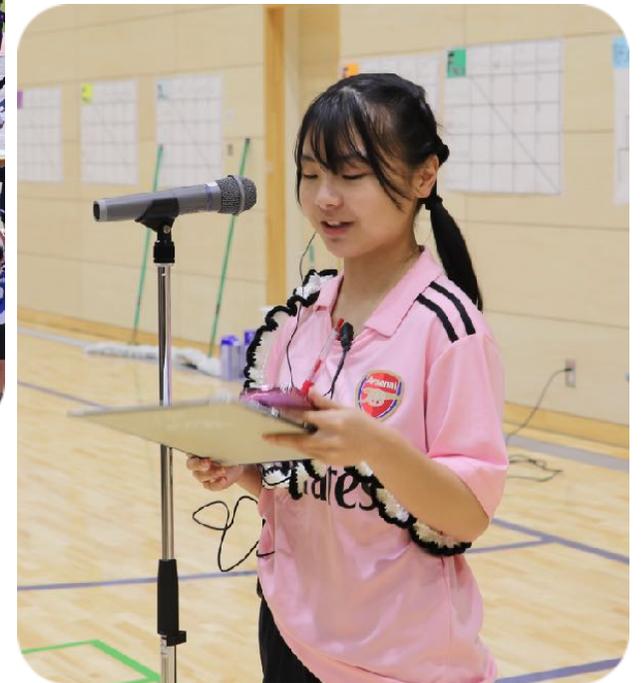
北海道大谷室蘭高等学校 PTA広報部 Vol.66



美術部 佐々木 愛結 蓮華白蛇 (上)
宇川 真右 夢想 (左)

体育祭

9月29日（月）、栗林商会アリーナにてバレーボール、翌30日（火）、日鋼室蘭スポーツパークにて運動会という日程で、体育祭が行われました。バレーボールは大会前の体育の授業で練習した成果を発揮し、ハイレベルの試合が展開されました。運動会は100m走や男女混合4x100mリレーのような真剣勝負の種目と、障害物リレーのような楽しい生徒会企画等で盛り上がりました。



1日目 球技大会



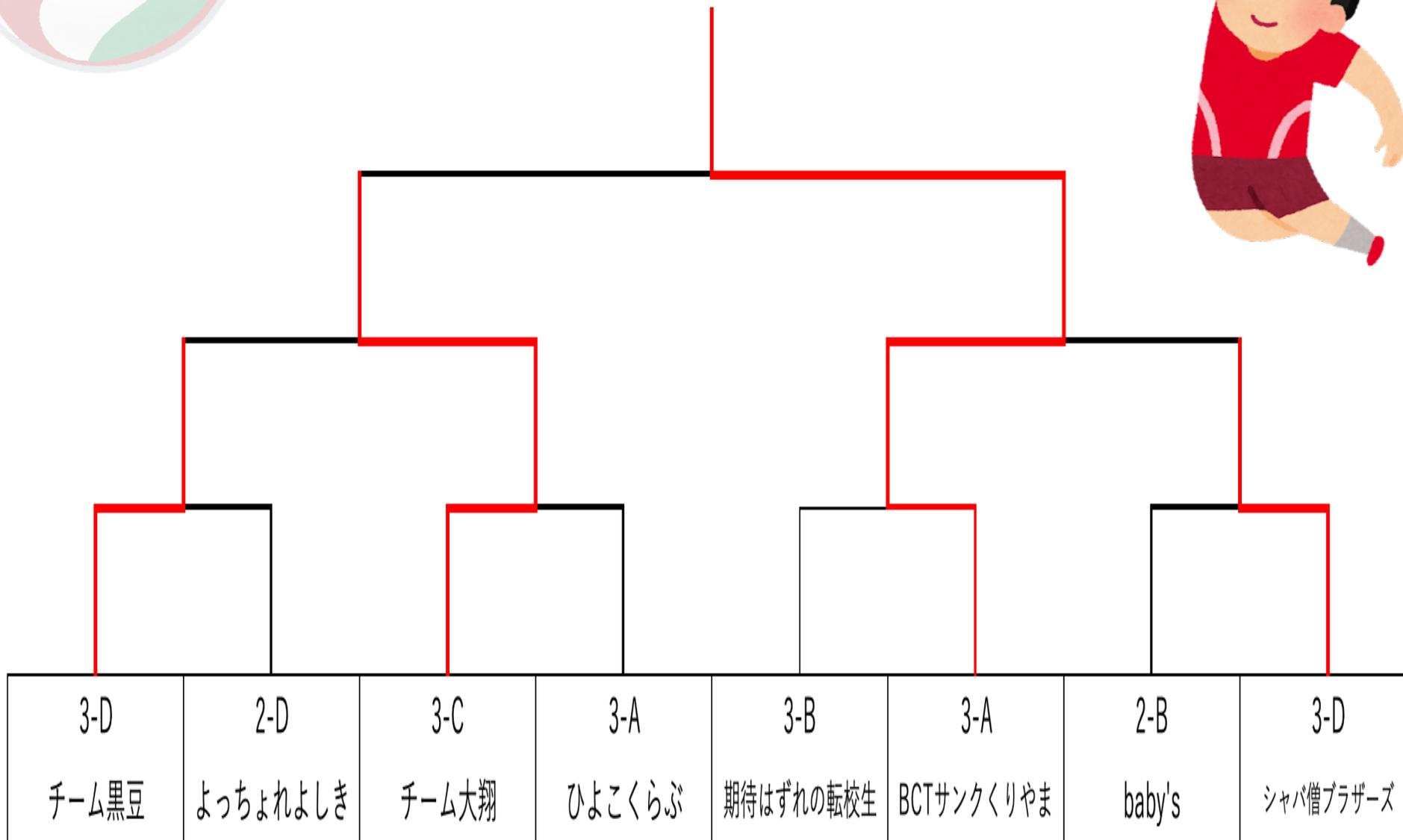
2日目 運動会



ムカデ競走 大縄跳び
綱引き 玉入れ

バレーボール 男子 決勝トーナメント

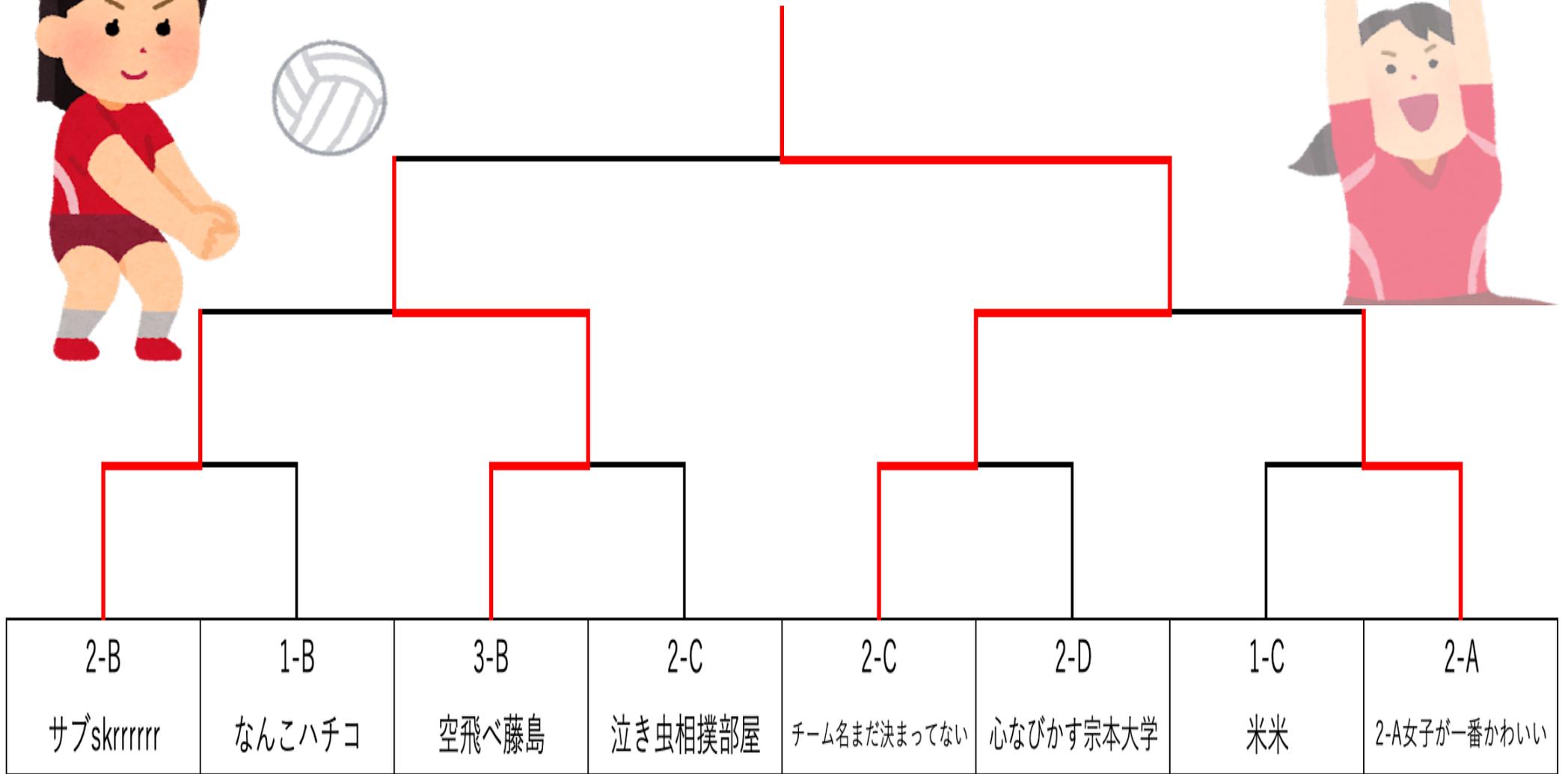
男子決勝トーナメント



バレーボール 女子 決勝トーナメント



女子決勝トーナメント



バレーボール 男子優勝



3年A組 BCTサンクくりやま

バレーボール 女子優勝



2年C組 チーム名まだ決まってない

運動会 優勝 3年C組



体育祭 総合優勝 3年C組



芸術鑑賞

今年の芸術鑑賞は、10月7日（火）に室ガス文化センターで行われた、劇団マグネットワールドによる演劇公演「地雷探知犬ニーナ」でした。

劇団によると、この「地雷探知犬ニーナ」制作のきっかけになったのは、葉祥明さんという方が描かれた一冊の絵本「地雷ではなく花をください」です。身勝手に地雷を埋め、地球を傷つけ、尊い生き物の命をずたずたにする、人間の愚かな行動に怒りを覚えた劇団の代表が、これまで地雷の問題を知ろうともせず、世界で起こっている現実を目をやるうともしなかったことに気づき、「何かしたい！小さな事でもいいから、何か自分にできることを！」と強く思うようになり、その気持ちは、「地雷探知犬ニーナ」を制作することへと発展しました。

あらすじは、女子高生が、地雷撤去ボランティアの父と愛犬を追ってカンボジアへ向かい、戦争の爪痕と人間が埋めた地雷を撤去する人々と地雷探知犬の姿を通して成長し、父との親子の絆を深める物語です。

劇中では本物の犬もニーナ役で登場し、生徒を驚かせていました。



OTANI 自然環境活動

今年度のOTANI自然保護活動は、学年ごとに分かれての取り組みとなりました。

1 学年

9月18日、室蘭市の重要な環境資源、イタンキの鳴り砂を守るため活動している「室蘭イタンキ浜鳴り砂を守る会」の皆様による講演が行われ、イタンキ浜の歴史、砂が鳴る条件、全国の鳴り砂の拡大写真等を通して、砂浜に異物が混入していると音が鳴らず、鳴り砂を守るためには日頃の清掃活動が必要不可欠であることを学びました。

講演を受け、10月6日にイタンキ浜を訪れ、実際に清掃活動を行いました。講演の時のように砂が鳴るか試しても異物のため鳴らず、海から流れてくるごみの多さに生徒は驚きと絶望を感じていました。そして、毎年定期的にイタンキ浜の清掃に取り組まれている鳴り砂を守る会の皆様に敬意を表していました。



OTANI 自然環境活動

2 学年

10月6日、2 学年は地球岬をゴールに、室蘭観光道路を2 方面から清掃していきました。A・C組は御崎駅から御前水観光道路を經由し地球岬へ、B・D組は室蘭駅から山手町観光道路を經由し地球岬へ。さわやかな秋風のもと、遠足も兼ねた清掃活動となりました。



OTANI 自然環境活動

3 学年

同じく10月6日、3学年はだんパラ公園をゴールに、学校から歩きながら清掃していきました。だんパラ到着後は全員で焼肉を囲み、クラスや学年の親睦を深める楽しいひと時を過ごしました。



新生徒会役員



会 長	中居	琉南	2年
副会長	岡崎	萌花	2年
	原	吏桜	2年
	仲川	康介	1年
書 記	辰	風花	2年
会 計	佐々木	幸苾	2年
	竹迫	拓真	1年

修学旅行

行程

11月29日(土)	東室蘭駅東口	→	新千歳空港	→	伊丹空港	→	東本願寺	→	清水寺	→	ホテル
11月30日(日)	ホテル	→		→	関西地区	→	グループ自主研修	→		→	ホテル
沖縄組											
12月1日	ホテル	→	伊丹空港	→	那覇空港	→	ひめゆりの塔	→	おきなわワールド	→	ホテル
12月2日	ホテル	→	マリンスポーツ体験学習	→		→	美ら海水族館	→		→	ホテル
(月)	ホテル	→	美ら海水族館	→		→	ジャングリア沖縄	→		→	ホテル
12月3日(水)	ホテル	→	国際通り散策	→	那覇空港	→	羽田空港	→	新千歳空港	→	東室蘭駅東口
オーストラリア											
12月1日(月)	前日夜	→	ケアンズ空港	→		→	キュランダ研修	→		→	ホテル
12月2日(火)	ホテル	→	ケアンズ港	→		→	グリーン島観光	→		→	ホテル
12月3日(水)	ホテル	→	ケアンズ空港	→	シドニー空港	→	シドニー市内観光	→		→	ホテル
12月4日(木)	ホテル	→	シドニー空港	→		→	ケアンズ空港	→		→	ホテル
12月5日(金)	ホテル	→	東京都内グループ別自主研修	→		→	羽田空港	→	新千歳空港	→	東室蘭駅東口



オーストラリア（キュランダ）

A組 岡部 裕太

「百聞は一見にしかず」旅をしない人は人間の価値を知ることはできない、という修学旅行の目的を深く実感した、オーストラリアでのキュランダ研修。私が生きてきた世界とは、まるで違っていった。

先住民である、アボリジナルピープルに初めてお目にかかり、今まで教科書からしか見ていなかった景色を現実で見ることができた。ブーメラン体験やダンスショーでは感じたことのない迫力を肌で体感した。また、ミニ動物園では、コアラやカンガルーを初めて見ることができ、カンガルーは、近づいて一緒に写真を撮ることができ、自然の中で生きていることを実感した。キュランダ鉄道ではガイドさんが案内をしてもらいながら歴史の背景と共に美しい景色を見ることができた。

国境を越えることで、文化の違い、気候の違い、食事の違いなど、多くの初めてを経験することができた。多文化共生が必要な世の中において多くの経験を得たこの一日は今後忘れることはないだろう。



オーストラリア（グリーン島、シドニー）

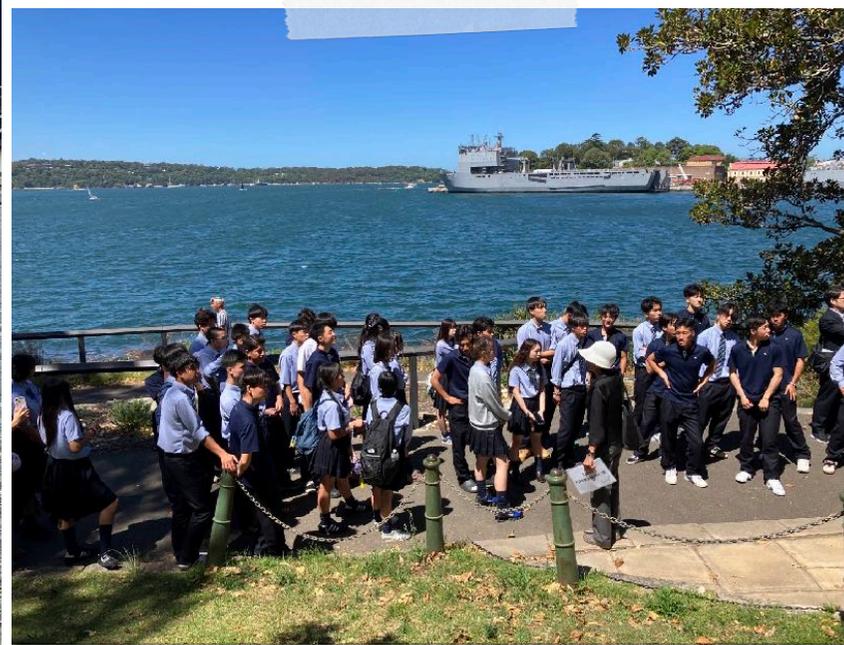
B組 沼田 奏和

私は修学旅行でグリーン島とシドニーを訪れました。

グリーン島では透き通った海と白い砂浜が広がっていました。シュノーケリング体験では、色々な魚やサンゴ礁を間近で見られてとても貴重な体験をすることができました。グラスボトムボートでは海の中に入らずに海中の様子を観察でき、魚やウミガメやサメの泳ぐ姿が見られて、オーストラリアの自然を感じられてとても楽しかったです。

シドニーでは、オペラハウスやハーバーブリッジなどの有名な建造物を見学し、実際目の前で見ると迫力がすごく、とても感動しました。食事は、量や味付けは日本とは違い、食文化の違いを実感しました。

海外の修学旅行では、日本ではできない体験ができ、とても思い出に残る旅行となりました。



東本願寺とひめゆりの塔

C組 関 悠陽

今回、修学旅行で東本願寺とひめゆりの塔を訪れました。

東本願寺では、広く静かな境内と大きな建物に圧倒され、自然と心が落ち着きました。長い年月をかけて守られてきた場所で、日本の伝統を感じました。

ひめゆりの塔では、沖縄戦で多くの若い命が失われたことを知り、強い衝撃を受けました。同年代の人々が過酷な状況に置かれていたことを思うと、今の平和な生活が当たり前ではないと実感しました。この修学旅行を通して、歴史を学び、平和の大切さについて改めて考えることができました。



関西自主研修

D組 小林 詩葉

私の今回の修学旅行での思い出は、2日目の関西自主研修です。予定を立てる段階からすでに楽しみで、当日が待ちきれませんでした。

実際に始まってみると、都会の建物の大きさや人の多さ、複雑な構造だらけで駅では常に迷子状態でした。そんな中、やっと着いたユニバは、居るだけで楽しく、景色も雰囲気も「すごい」の連続でした。今回は午前中しかいなく、乗り物に乗れなかったのが、次は1日中行ってリベンジしたいです。

午後は道頓堀やアメ村に行き、人の多さに圧倒されながらも大阪ならではの食べ物を楽しみました。

今回の修学旅行を通し、都会は大変だと感じました。でも友達と一緒にだからどんな時でも楽しく過ごせました。沢山の思い出を一緒につくってくれてありがとう、という気持ちでいっぱいです。この経験は一生忘れることのない最高の思い出になりました。



吹奏楽部定期演奏会

10月19日（日）

今年も第53回目の定期演奏会を盛大に開催することができました。第1部 コンサートバンドでは、今年度コンクール自由曲『序曲「インペラトリクス」』、ゲーム音楽『ドラゴンクエストによるコンサート・セレクション』、大航海時代のマゼラン一行の物語をイメージした『マゼランの未知なる大陸への挑戦』を演奏させていただきました。第2部 ジャズバンドでは、『A Night in Tunisia』をはじめジャズの名曲を渋く演奏。第3部 コンサートバンドでは、近年好評のミュージカルシリーズ『ユーロビート・ディズニーメドレー』、続くショーバンドでは、『ご長寿番組大メドレー』をはじめとした部員セレクトによるスタンダードナンバーを披露して最後を飾りました。

ご来場くださいました皆様に、改めまして感謝申し上げます。今後ご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。



美術部

8月21日（木）・22日（金）、高文連室蘭支部大会が、室ガス文化センターにて行われました。本校からは5名5作品出品し、うち1作品は最優秀賞、2作品は奨励賞を受賞しました。夏休みも毎日登校し、時間をかけて丁寧に制作に取り組んだ努力の跡がうかがえる、見ごたえのある作品となりました。

10月9日（木）～10日（金）、札幌にて行われた全道大会に受賞者が参加し、充実した研修の機会を得ることができました。

最優秀賞 「毒、廻り、還る」
岩谷叶（3年）



美術部



奨励賞 「タイタニック号」
竹内謙佑（2年）

書道部

8月26日（火）～28日（木）、高文連室蘭支部大会が、室ガス文化センターにて行われました。

本校からは、2名は入選で全道大会出品、他1名は奨励賞を受賞しました。夏休みも返上して毎日自身の作品テーマに向き合い、何度も筆を走らせた努力の結果が実りました。

全道大会は10月15日（水）～17日（金）、釧路にて開催され、全道レベルの作品を直に鑑賞し、他校生徒との交流も深めることができました。



奨励賞「華」
山口雄大（3年）

書道部



入選「瓦当文字」
藤島柚菜（3年）



入選「萊子侯刻石」
千葉心愛（3年）

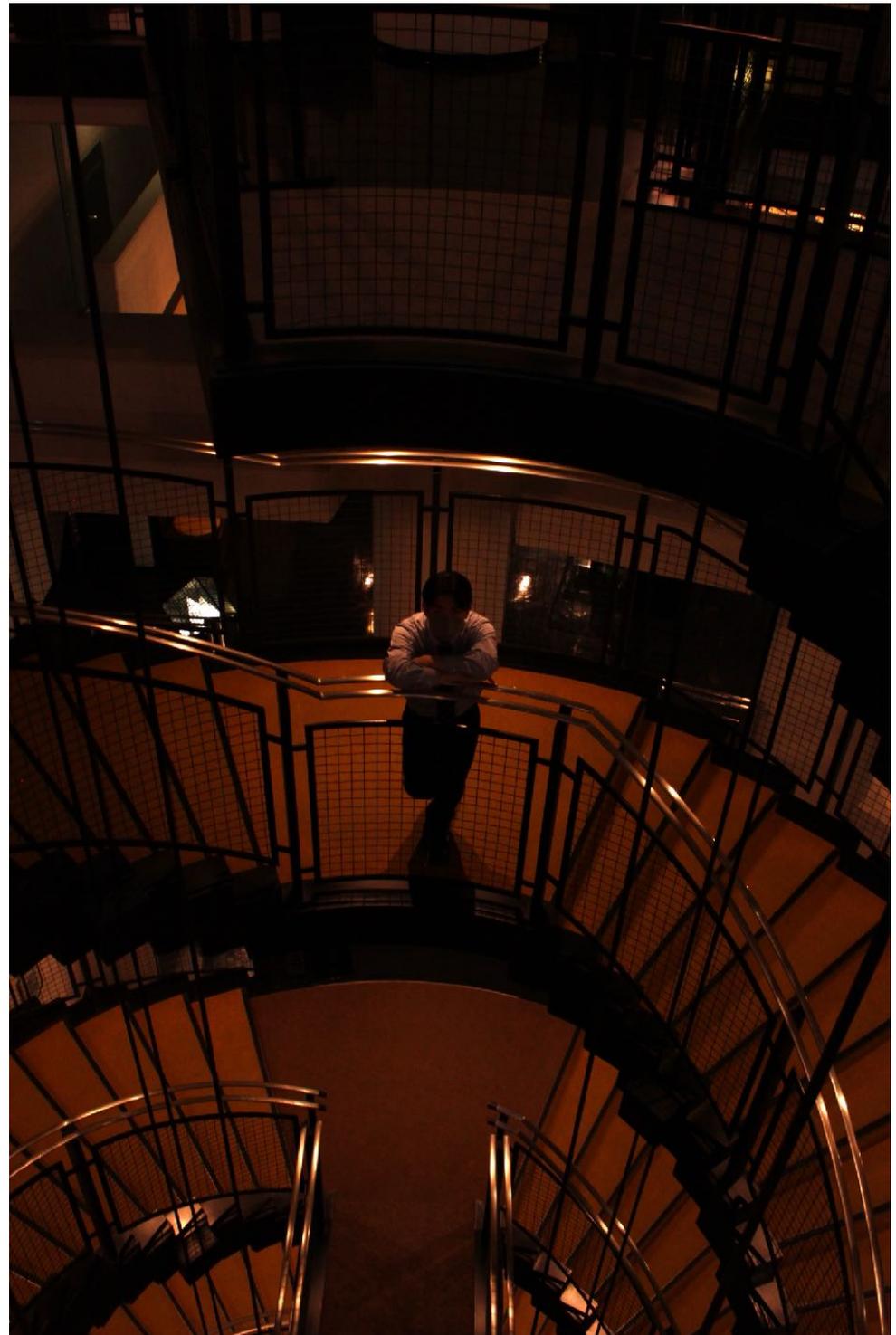
写真部

9月9日（火）、高文連室蘭支部大会が、イオン登別 コミュニティーホールにて行われました。

本校からは7名21作品出品し、うち2作品が入選を果たしました。水曜日の活動日や夏休みを利用して、撮りためた写真からベストショットを選び、支部大会当日は講師の先生より作品批評をいただき、亀田記念公園の撮影研修にも臨みました。

入選作品は10月15日（水）～17日（金）、岩見沢にて行われた全道大会に出品し、撮影の技術や心構え等を学ぶ、貴重な研修の機会を得ることができました。

優秀賞「くしろ」
吉田葉奈（2年）



写真部



入選「俺ら、都会に着く」
今野颯太（3年）

報恩講

11月18日（火）、浄土真宗の宗祖親鸞聖人の後祥月命日に勤める法要、報恩講が、本校講堂にて執り行われました。

最初は、物故者の追弔および法要が行われ、教職員関係4名、生徒関係14名の物故者の方々のお名前が理事長により読まれ、焼香を行いました。

法話は、本校宗教科 岸田理先生より、「いのちはだれのものか」と題し、安楽死からの切り口で、いのちについて考える機会をいただきました。

真宗大谷派 四国教区には、お母さんの安楽死をきっかけに僧侶になった、スイス出身のジェシーさんという方がいます。そのジェシーさんの経験を基に、法話は進められました。

スイスは安楽死が合法化されており、死ぬ薬の投与により、安楽死が行われています。人権重視の国スイスではThe right to live the right to die（生きる権利、死ぬ権利）生きるも死ぬも自分で決めるのが当然、自分でそれを決めるのは当たり前だという考えです。

ジェシーさんのお母さんは、高齢者としては健康であるにも関わらず、「いつ死ぬか決めるのは私の権利です。誰の許可も必要ない」と言い、家族の生きて欲しいとの願いを振り切り、「そんなの関係ない、それが私の人生だから自分で決めるんだ」と主張し、安楽死を実行しました。

ジェシーさんはお母さんの安楽死を通して、昨今の延命医療の発達により自然死が困難になった現代は、本当に生きるというのは何かと問われている時代になっていると考えています。その答えのヒントは、私たちが日ごろ宗教の授業で学ぶ次の言葉にあるでしょう。

「あなたの人生（いのち）はあなたのものだ。やり直しもできないし、誰とも代わることができない。けれども、あなたの人生はあなただけのものではない。必ず誰かと共に歩み、その誰かと積み重ねてきた人生だ」

岸田先生は、以上のエピソードについて、生徒の心に強く働き掛けて伝えてくださいました。自分の、そして共に歩む誰かのいのちを、これからも大切にしていくことを新たに決意した、貴重な報恩講の学びでした。



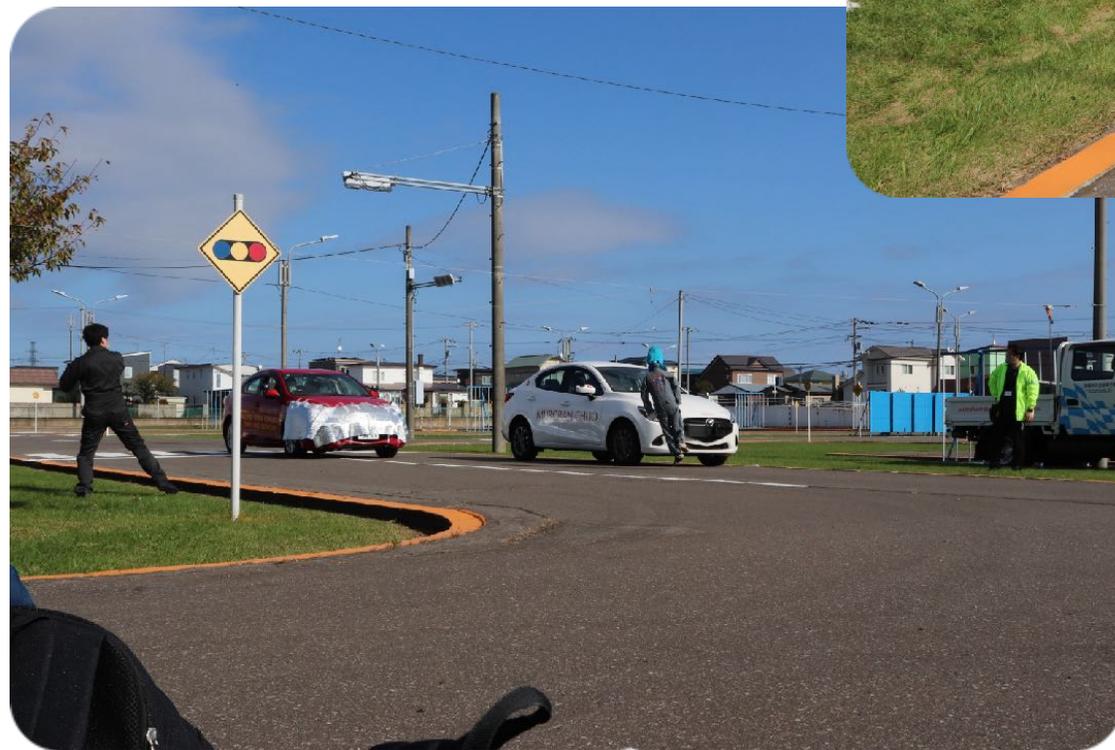
交通安全教室

10月14日（火）に室蘭中央自動車学園で、3年生を対象に交通安全教室が開かれました。時速40キロメートルからの急ブレーキによる危険運転体験、飲酒後の体調変化体験、自動車左折時の自転車巻き込み事故や、人形と自動車の衝突事故のデモンストレーションを通して、交通安全の大切さについて学びました。また、自転車運転の不注意による大事故の事例をDVDで鑑賞し、一瞬の注意不足が一生取り返しのつかない怪我などにつながる、交通事故の恐ろしさを改めて知ることができました。3年生は現在、進路決定者を中心に自動車学校に通っています。運転免許取得後は交通安全教室で学んだことを忘れず、飲酒運転は絶対しない、周囲の確認を怠らない運転を実行してもらいたいものです。



交通安全教室

衝突事故のデモンストレーション



泥酔状態時の歩行体験

漢字コンクール

毎年行われる漢字コンクール。今年は、10月1日（水）に実施されました。成績上位者には図書カードが贈られました。

入賞者

1位 大宮愛瑠（3A）

1位 矢野芽衣（3A）

3位 朝岡紗知（3D）

4位 久保夏恋（3A）

5位 工藤柊人（3B）

6位 川島桜春（1A）

7位 高橋依那（2B）

8位 高島杏奈（3A）

9位 三枝朝翔（2D）

10位 田中智也（3B）

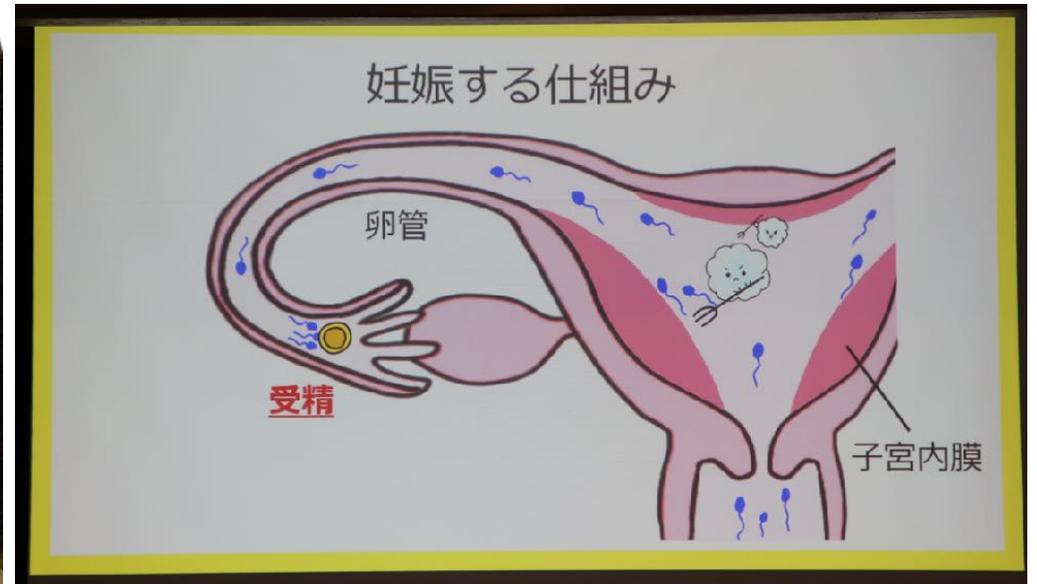


性の講話

11月26日（水）、12月1日（月）、12月9日（火）の3回にわたり、本校講堂で、1学年生徒を対象に性についての講話が行われました。

第1回は本校養護教諭 法貴朋美先生より、「健康的な関係をつくろう～妊娠について～」をテーマに、男女対等な関係を保つことの大切さ、妊娠および妊娠のあとの選択肢について、正しい避妊方法について学びました。

第2回はSoilU(ソイル)代表 宮坂舞花様を講師に迎え、人権とジェンダー平等を基盤に、人間関係等を含んだ幅広い性に関する考え方について学びました。男女交際において問題となるデートDVの防止は、日常の人間関係と深く結びついていることを理解することができました。





祝 全国大会出場！

女子サッカー部は、9月28日に行われた北海道高等学校選手権大会決勝において、北照に1-1(1-1.延長0-0.PK5-4)で勝利し、全道優勝チームとして12月29日（月）より行われる全国大会に出場します。



編集後記

令和7年は、止まらない物価高騰に負けず、各行事が無事開催されました。行事の見直しも図られ、球技大会と陸上記録会をまとめた体育祭、学年ごとの実施となったOTANI自然保護活動等が開催されました。また、修学旅行は念願のオーストラリアが復活し、国内は4泊5日、オーストラリアは6泊7日の日程で、本校が大切にしている国際交流を目的とした修学旅行が実現しました。

令和7年は、能登半島地震から1年の復興の歩み、4月からのお阪・関西万博開催、昭和100年、終戦からは80年という重要な節目を迎え、日本の災害復興力と平和への意識を再確認する年となりました。また、日本史上初めて、女性の内閣総理大臣 高市早苗氏が就任し、男女平等参画社会のますますの発展が期待できそうです。

世界情勢に目を向けると、1月20日、ドナルド・トランプ氏が第47代米国大統領に就任し、4月には輸入品に関税を課す政策を発表。これに伴い、国際貿易に混乱をもたらし、世界経済全体を下押しする要因となりました。また、ウクライナ・ロシア戦争は終結のめどが立たず、イスラエルとハマスは米国の和平案を受け入れ、停戦に合意したものの、ガザ地区への攻撃は続いています。1日も早い戦争終結を強く望まずにはいられません。

また、令和7年は、火災の多発、クマの出没など、日常生活における災害の恐ろしさを痛感した年でもありました。本校周辺でもクマの目撃情報が寄せられています。本校としても日頃の火災予防、生命を守る取り組みについて意識を高めていかなければなりません。

明るい話題は何といっても、大谷翔平選手をはじめ、アメリカ大リーグで活躍している日本人選手の躍進でしょう。ロサンゼルス・ドジャースに所属する3人の日本人選手の活躍により、同チームは2連覇を果たしました。

令和8年は、穏やかで平和に満ちた年でありますよう、また、自然災害の被害がない年になりますように念じています。